

## この世は二つ：言葉の世界と心の世界

### There Are Two Worlds: One Is of Language, the Other Is of Mind

遠藤 光

ENDO Hikaru

---

**Abstract:** *Noh: King Lear* written by Kuniyoshi UEDA and performed by Reiko ADACHI and Yoshihisa ENDO was the best quality production, making me intoxicated. In addition to its beautifully adapted script, it has the perfect effect of catharsis through the unique description of the world of after death in the end which leads all audiences into satisfaction. Feeling peace and inner contentment as souls, Lear and Cordelia exit slowly without any words. This last scene clearly implies the most important song “There Are Two Worlds: One Is of language, the Other Is of Mind” by a Lear’s clown. UEDA’s successful adaptation and the superior performers attained to catharsis which we cannot see in the tragedy of Shakespeare’s *King Lear*.

**Keywords:** *Noh: King Lear*, Kuniyoshi UEDA, Reiko ADACHI, Yoshihisa ENDO, catharsis

『能・リア王』、上田邦義、足立禮子、遠藤喜久、カタルシス

---

上田邦義氏の新作『能・リア王』を再び鑑賞できたことは、この上なく有り難いことであった。「別紙、狂言間語」の最後に、“演能に際しては適宜変更あるものとします”とあったように、初回の台本の多くの箇所に変更が施され、台詞が、一層滑らかになったように感じた。美しく仕上がった台本を、シテ（コーディーリア）の足立禮子師とツレ（リア王）の遠藤喜久師とが、それぞれの性格を最大限に発揮した、あの清音によって、またもや陶醉した。

私は、かねてより、シェイクスピアの『リア王』の最後の箇所に不満を覚えていた。観客あるいは読者にとって最も大切である、カタルシスの効果がいまいち弱いからである。ところが上田氏は、芸術に対するしっかりした信念をお持ちのようで、作る人と、演じる人と、観る人が、一様に幸福感に満たされなければならないと考えておられる。新作『能・リア王』では、コーディーリアとリア王の「死後の魂のいきさつ」を描くことで、完全にカタルシスを達成している。

リア王お抱え道化は、途中、次のように語る。

この世は二つ  
見える世界と見えない世界

この世は二つ  
言葉の世界と心の世界

この世は二つ  
心の人と言葉の人よ

すなわち、リア王とコーディーリアの死後の世界の至福の様が描かれたことで、ここで謡われている本当の意味が、はっきりしてくることになる。

そして最後の場面では、もはや言葉はなく、魂になった二人の喜びの相舞の後、リア王が先に橋懸かりを静かに去っていく。そのさまをコーディーリアがじっと見守り、やがて彼女も我に返ったように、嬉しさを抑えながら静々と橋懸かりの奥を目指して父親の後を追って終わる。この間の息詰まるようなしじまの圧力に観客は圧倒され、やがて満足の拍手が静かに沸き起こる。

真心から生じた上田氏の換骨奪胎の技と演者の芸術が一体となって、シェイクスピアがなし得なかったものを、いや、シェイクスピアが中途半端のまま観客の心を放置していたものを、見事に完成させている。